

～学びと育ちの連続性～

浦幌小中一貫CS便り

平成 28 年 1 月 1 日 (N0.68)



浦幌町教育委員会

浦幌町教育研究所



出口寿久氏の講演

浦幌町CS講演会

12月20日(日)、上浦幌中学校体育館において、北海道大学学務部長(文部科学省CSマイスター)の出口寿久氏を講師にお招きして浦幌町PTA 連合会研究大会を開催しました。

出口氏は、平成26年2月にもご来町されてご講演をいただいています。今回は、「地域とともにある学校づくり～CSと地方創生～」という演題で、CSの成果と課題、今後の方向性(学校を核とした地方創生)等について次のようなお話をいただきました。

CS導入のポイント

①CSは関係者間の信頼関係や協働体制づくりのための制度であること
の理解が必要 ②CSはあくまでも道具であり、大事なものは校長のビジョン
③教職員の異動に左右されない学校と地域の関係づくり



出口寿久氏

CSの導入の成果

①子どもたちの「生きる力」を育成することができる
②教職員や保護者、地域住民等がともに成長していく
③学校を核として地域ネットワークが形成される
④地域コミュニティの基礎力が高まる

学校運営協議会の位置付け

①学校運営協議会が校長に代わって、学校運営を決定・実施する権限を有するものではない
②学校運営の責任者は、あくまでも校長
③合議制の機関である学校運営協議会が、その意思決定に基づき、意見を述べるにあたっては一定の責任が生ずる。

CSの次のステップ

①教育委員会・学校主体から対等の関係へ(学校中心のCS運営から協働のCS運営へ)
②学校支援の活動から地域づくりの活動へ
③支援してもらう生徒から恩返しする生徒へ
④育ててくれたふるさとから守ろうとするふるさとへ

浦幌町の更なる発展へ

①地域住民が入りやすい学校へ
②社会教育(公民館)と連携した取組へ
③学校を核とした地域づくりは住民主導で
④浦幌スタイルをベースにした地方創生へ
⑤地場産業や起業へのサポート
⑥行政職員は役割の認識を



講演に聴き入る参加者